

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

126号  
2020年11月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 1047名地裁あて署名運動へ 解雇撤回

## 労働運動の再生へ11・1日比谷集会開催



11月1日、東京・日比谷野外音楽堂で全国労働者集会／改憲阻止！1万人行進が開催されました。国鉄闘争全国運動、港合同、関西生コン支部、動労千葉の発言を紹介します。

### 原点に振り返り労働組合の存在意義訴え

国鉄闘争全国運動呼びかけ人 金元重

11月全国労働者集会が関西生コン支部、港合同、動労千葉の3労組によって開催されるようになったのは23年前の1998年、戦後最大の労働組合破壊攻撃としての国鉄分割・民営化過程において、東京地裁における

「JRに法的責任なし」というとんでもない反動判決が出たことに対する怒りと危機感から、3労組による国鉄闘争の新たな陣形をつくりだすという狙いからでした。

### 1047名解雇撤回の行政訴訟開始 東京地裁宛新署名を全力で集めよう

国鉄闘争全国運動呼びかけ人 山本弘行

すべての仲間の皆さん。国鉄1047名解雇撤回・JR復帰と団交開催を求める東京地裁宛新署名への全力の取り組みを訴

### ついに土俵に引きずり出した

11月11日、解雇撤回・JR復帰を求める行政訴訟の第1回裁判が開催されました。国鉄分割・民営化による不当解雇の責任を認めず、JRと政府を免罪する中労委命令の撤回を求める裁判です。



そこに提出された中労委側の書面では、「JR設立委員会が名簿不記載基準（＝不採用基準）の策定、採用候補者名簿の



総をほじめ、アメリカ、ドイツ、そして第三世界の労働組合との国際連帯を推進する場としても地歩を固めてきました。

今年は、コロナ禍のために、闘う海外の仲間を迎えることはできませんでしたが、昨日、本集会と一体のものとして行われた10・31労働者国際連帯集会で、韓国民主労総ソウル地域本部とオンラインメッセージが交わされ、また、台湾、ドイツ、アメリカUTLA（ロサンゼルス

又統一教組）の仲間からも、パデミックの中の闘いの現状報告と、熱い連帯のメッセージが寄せられました。さて、去る10月18日、本集会に向けての3回目の実行委員会が開かれ、そこでの議論の中で、本日の集会の目的や意義について熱い議論がなされました。その中で、原点に立ち返るという議論と提起が大変印象に残りました。

原点というのは、私なりにとらえて、2点ありました。一つは、この全国労働者集会が、関西生コン支部、港合同、動労千葉の3労組の新自由主義に対する必死の反撃の中からつくられたことは先に申しましたが、果たして、私たちのこの23

作成に関与した事実を否認する」とはっきりと書かれていいます。これは重大なことです。動労千葉・動労総連合の30年を超える闘いは、ついにJR不採用基準そのものが不当労働行為であることを最高裁で確定させました。当初はJRへの採用候補者名簿に全員の名前がのっていたことも突き止まりました。それが、直前になって斎藤英四郎JR設立委員長の指示によって不採用基準が作られ、名簿からの排除＝JR不採用・解雇が行われたのです。これがJRによる不当労働行為でなくて、なんだというのでしょうか。これまで労働委員会はこの事

年間の反新自由主義闘争、階級的労働運動を守る闘いは、本当に初期の目的を達成してきていると言えるのだろうか。もし、まだ道半ばだとすれば、いったいどこを、どう改めていくべきなのか。そうしたことをもう一度考える契機にしたい。そういう意味だと思いました。そのために、今年の集会プログラムでは、3労組それぞれの立場からのアピールが設定されています。

原点に立ち返るといふことの成果をしっかりと受け止め、明日からの職場、学校、地域における活動に生かしていく。そして1万人大行進・都心デモを貫徹するために、今日一日、がんばりましょう。

しかし、今度は「設立委員会が不当労働行為に関与した事実を否認する」と言わざるを得なかった。暴かれた国家的不当労働行為の真実から逃げ回っていた労働委員会をようやく土俵の上に引きずり出したのです。勝負はここからです。

「否認」なら徹底した事実調べを  
一方で中労委は、斎藤英四郎JR設立委員長が具体的にどのような不採用基準の策定を指示したのかという事実について、「判断する必要がない」と言っています。「名簿作成は国鉄が行う」と国鉄改革法に書かれているから、事実がどうだったかは関係ない」というのです。こんなデタラメが許されていいはず

がありません。事実関係についてお互いの主張が対立しているのだから、徹底した事実調べを行うのは当然です。不採用基準の作成、名簿からの排除の指示を行った葛西敬之（JR東海名誉会長）、葛西のもとで実際に名簿からの排除の作業を行った深澤祐二（J

（裏面に続く）

●解雇撤回・団交開催行政訴訟  
21年2月3日11時 東京地裁527法廷

# 「大阪都構想反対」で闘いぬく

全国金属機械労働組合港合同執行委員 木下浩平

今日は港合同を代表して発言しますが、本来なら中村委員長が直接駆けつけてアピールをするところですが、しかし、大阪ではまさに今日が、大阪市を廃止する、都構想という名の住民投票の投票日です。

今朝早く(中村委員長から)LINEが来て、投票所の小学校の前で「都構想反対」ののぼりを立てた自転車を押し、学校の周りでアピールしている写真を送ってきました。ぜひそのことを伝えてほしいとのことがありました。



この間、「都構想反対」で中村委員長を先頭に駅頭でビラをまき、街宣に立ってアピールし、また地域ではビラ入れや自転車での練り歩きに、港合同も組織を挙げて取り組んできたところです。

(表面からの続き)  
R東日本社長の証人尋問は絶対に必要です。

中労委や裁判所が再び真実から逃げることを許すわけにはいきません。裁判長は第1回裁判で、中村書記次長の解雇撤回を求める熱意な意見陳述を受け、「真剣に審理する」と発言

職や市役、市教組など、大阪市の公務員労働組合に対しての組合つぶしを絶対に許すことができないという強い思いで港合同としても闘ってきました。

振り返れば11年の年末、橋下市長が登場し、「大阪市の労働組合を放置すればギリシアのようになる」「大阪市の労働組合は本当にひどい」と公務員労働へのバッシングを開始しました。次々と労働組合の活動を制限しようとする条例などが作成され、そのもとで労働組合自身が活動自粛をされました。

しかし、私たちは、そうした現状をいかに乗り越えようかということで、今は亡き大和田事務局長が「団結権とはいかなるものか」と、官民の闘う仲間に対して強い檄を飛ばしました。私たちは地域で官民の闘う組織と運動を守り、現場で決起する公務員労働者と連帯をして再々橋下打倒集会を開催して、大阪市の役所から橋下元市長をたたき出す闘いを進めてきました。

そして、5年前の都構想住民投票の過程でも私たちは闘いを継続してきました。しかしその後5年間、大阪市の中でも

次々と民営化が進み、地下鉄やバス、下水道が民営化をされてしまっています。しかしながら、公務員労働の闘いがいかに困難であっても、地域の闘いがこれをお押し上げ共に闘う中で、今なお大阪市の労働組合はつぶされたい。このことが、今回の

## 弾圧粉砕へ勝利するまで闘う

全日本建設運輸連帯労働組合 関西地区生コン支部書記次長

武谷新吾



去年はここに参加できなくて2年ぶりに日比谷野音にきました。この間のご支援に心からお礼を申し上げます。長期勾留を強いられていた武委員長と湯川副委員長を奪還することができました。また9月16日には、奈良地域の生コン会社から不当解雇された組合員の解雇撤回・原職復帰を勝ち取りました。

脱退強要の不当労働行為、事件

都構想を維新の会が推し進めざるを得ないところに追い込んだ最大の力ではなかったかと思えます。私たちは、こうした闘いの中で、官民の労働者、労働組合の団結をさらに強め、必ずこの闘いの勝利をもって菅と維新を打倒していきたい。

を細分化して再逮捕を繰り返す恣意的勾留、組合事務所の立ち入り禁止や組合員との接触禁止など、労組活動をさせない保釈条件、国賠訴訟の証人尋問前に逮捕勾留する裁判の妨害など、



## 今こそ国鉄1047名解雇撤回を

「公的部門を次々に民営化し

ました。数千、数万の署名を東京地裁に突きつけ、裁判長の言葉通りに真剣な審理と徹底した事実調査を行わせましょう。

労働組合活動の自由を奪うことに対する国家賠償請求訴訟に臨んでいます。

## 労働運動の再生へ一歩前へ踏み出そう

国鉄千葉動力車労働組合執行委員長 関道利

敗に対して自らの責任をどうとせず、労働者、中小零細事業者ら大衆に犠牲を転嫁しておられます。具体的実効性のあるコロナ対策を打てず、同調圧力と主権の侵害で大衆を分断するなど、コロナ危機を利用して大企業優位政策を続ける一方で、闘う労働組合や平和団体を解体・排斥し、戦争する国の体制を整えているのです。

菅政権は自らの政策や法案に反対する者は徹底的に排除する意志を示し、動労千葉、港合同、関西生コンなど、闘う労働組合やまっとうな声を上げる民衆への弾圧を継続するこ

とでしょう。しかしこの攻撃は、新たな階級対立をつくり、新たな団結と闘いの条件を敵がつかっているのです。

3労組が「闘う労働組合の全ネットワークをつくらう」と呼びかけを発した原点は、80年代にあります。中曽根政権は労働組合に激しい攻撃を加え、社会生活の全分野を競争原理の中に突き落としました。新自由主義攻撃です。日本の労働運動は雪崩を打って後退しました。私たち3労組はその渦中で強力な団結の基礎を形成し、勝ち抜いた労働組合です。

関西地区生コン支部は、現在につながる大弾圧と闘いぬいて、資本主義の根幹を揺るがす画期的な産業別労働運動を確立しました。

今日第一に訴えたいことは、ここに結集した皆さんの中にその力があることです。コロナ危機は労働者が団結する条件、階級として歴史の前面に登場する条件を生み出しています。その怒りが行動となり、闘いとなり、信をもち、原点に返って、課題を克服する闘いをつくるのが重要です。

R体制を揺るがしています。全国金属機械港合同は、倒産攻撃の渦中で企業の堀を越えて、地域を一つの労働組合として組織し勝利する中小労働運動の新たな地平を確立しました。それぞれの闘いは小さくとも日本の労働運動が抱え続けてきた限界を乗り越える階級的労働運動の新たな姿を示しました。

動労千葉は、総評解体にまで至る戦後最大の労働運動解体攻撃、国鉄分割・民営化に立ち向かって団結を守り抜き、今もJ

れる」——私たち国鉄闘争全国運動はそう訴えて闘ってきました。新型コロナ感染症の拡大をきっかけに、それが現実のものになっていきます。新自由主義

そのすべての出発が国鉄分割・民営化でした。労働運動が後退し、労働者の権利が奪われ、2千万人を超える労働者が非正規職に突き落とされました。公

そして現在、コロナ禍に便乗した大リストラ攻撃がはじまっています。もうこんなことは終わりにしなければなりません。今こそ闘う労働運動が力を取り戻し、新自由主義に断を下

※署名の第1次集約は12月25日です。

力を合わせて労働運動をよみがえらせよう。そのために一歩前へ踏み出しましょう。